

平成19年度の科学技術振興調整費の概算要求方針について

平成18年8月23日
総合科学技術会議

1 基本的考え方

平成19年度の科学技術振興調整費の概算要求については、第3期科学技術基本計画の本格実行に向け、18年度に創設した科学技術システム改革に資するプログラムについて十分な新規採択枠の確保に努めるとともに、世界トップレベルの研究拠点形成に向けた先導的プログラムを新たに実施する。

2 平成19年度から新規に実施することが適当なプログラム

新たに実施するプログラムにおいては、イノベーション創出総合戦略や経済成長戦略大綱等に基づき、「人」を重視した世界トップレベルの国際研究拠点を形成していくため、大学等を対象に、競争を促しつつ、各分野、各研究現場、経済・社会の現状を踏まえ、柔軟に集中的に支援を行う。

プログラムの検討にあたっては、

- ・ 個々の研究拠点におけるシステム改革に向けた取り組みを柔軟に支援すること
 - ・ 国内研究開発拠点の競争力強化に向けた関連施策との連携を積極的に推進すること
 - ・ 新たな学問領域への挑戦、既存の組織の壁を越えた連携等の斬新な提案を含め、意欲的な提案を積極的に評価し、取組を促していくこと
 - ・ イノベーションの創出など経済・社会への貢献を意識すること
- 等に留意していくこととする。

3 平成19年度に継続するプログラム

(1) 第3期科学技術基本計画の本格実行に向けて18年度に創設した次のプログラムについては、19年度も十分に新規採択枠を確保する。

- 「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」
- 「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」
- 「女性研究者支援モデル育成」
- 「地域再生人材創出拠点の形成」
- 「アジア科学技術協力の戦略的推進」
- 「重要政策課題への機動的対応の推進」

(2) 次のプログラムについては継続して実施するが、システム改革の推進を重視し、新規募集の適否も含めプログラム設計の見直しを行う。

- 「科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進」
- 「重要課題解決型研究等の推進」

4 経過措置、評価等に係る経費の確保等

新規募集を終了したプログラムについては、順次計画的に経費の縮減を行う。また、実施課題の評価等に必要な経費の確保を図る。